

坂東市 指定文化財

新たに4つの文化財を指定しました

市教育委員会は、坂東市文化財保護条例に基づき、新たに4つの文化財を「坂東市指定有形文化財」に指定しました。今回の指定により、市内に存在する指定文化財は81件（国指定1件、県指定18件、市指定62件）となりました。



厨子入木造如意輪観音坐像
（ずしりもくぞうよりりんかんのんざぞう）
所在地：萬蔵院（彫刻・江戸時代）

如意輪観音菩薩とは、衆生を救済する観音の中でも人々のあらゆる願いを叶えてくれる観音とされています。

本作は六臂（腕が6本）の如意輪観音坐像でとても丁寧に仕上げられた仏像です。全身を金泥塗りにしているうえ、着衣部分には数種類の截金が精巧に施され像の底と像内には漆箔が施されています。

構造上の特徴や洗練された温雅な表情から、江戸時代前期に京都の七条に仏所をおいた慶派の仏師によって造像された可能性が高いとされています。



茶頭中山翁製茶紀功碑
（ちやてんなかやまおつせいぢやきこうひ）
所在地：辺田地区（歴史資料・明治時代）

辺田地区の国道354号線沿いに建つ顕彰碑です。市の特産品である「さしま茶」の普及と発展に取り組み、海外への輸出も果たした中山元成の功績を称えて明治28年に建てられました。

碑の表面には元成の業績が細かに記され、裏面には全国の茶業者や地元の名士などの発起人・賛成員の名前が記されています。

元成の功績を示すことに加え、近代茶業史、地方史研究には欠くことのできない貴重な歴史資料です。



釈迦三尊像
（しゃかさんぞんぞう）
所在地：萬蔵院（絵画・明治時代）



沓掛地区出身の洋画家二世五姓田芳柳が制作し萬蔵院に献納した三幅からなる仏画です。虎と竜が描かれた左右の羅漢図が明治44年に、中央の釈迦牟尼尊像が大正7年に制作されました。

芳柳は15歳の時に上京し、初代五姓田芳柳の工房で学びました。その才能により初代芳柳から画号を継承し、幅広い絵画のジャンルで長きにわたって活躍しました。

本作は日本画と洋画の両画法を用いる五姓田派の特徴がよく表れており、二世芳柳の代表作ともいえる作品です。



明治天皇紀附図稿本
（めいじてんのつきがずこうぼん）
所在地：萬蔵院（歴史資料・明治時代）

明治天皇とその時代を記録した「明治天皇紀」の理解を深めるために制作された「明治天皇紀附図」の下絵にあたる稿本です。二世五姓田芳柳が制作し、卷子4巻にまとめられています。

明治天皇紀附図（宮内庁所蔵）は緻密に積み上げられた歴史考証に基づき二世芳柳が明治天皇のご事蹟を描いた81葉の水彩画です。本作はその附図を作成する際に描いた考証図であり、完成に至るまでの検討の様子や考証の過程が分かる貴重な歴史資料です。

県指定文化財 絹本曼荼羅の修繕が完了



県指定文化財「絹本曼荼羅」（萬蔵院）の修復に係る補助事業が1月に完了しました。経年劣化により全体に折れやしわがみられ、絵具の欠落や図像のズレが目立つなど早急な修理が必要とされたため、昨年5月より修復に取り組んできました。修繕が完了し鎌倉中後期の作と伝わる曼荼羅の煌びやかな姿がよみがえりました。

☎ 生涯学習課

☎ 0297(21)2204